

2016年を迎えて 5年目のことしこそ！

公益社団法人福島原発行動隊 理事長 安藤 博

なにができるか、なにをすべきか

皆さま、明けましておめでとうございます。
東日本大震災/東京電力福島第一原子力発電所(F1)事故から5年となることし、わたしたち福島原発行動隊(SVCF)も発足以来5年目を迎えます。

内外の悪条件に阻まれて続けてきたこれまでの逼塞状態を克服し、ことしこそ所期の目標実現に向けてより確かな一歩を踏み出しましょう。

そのための具体的な計画を、法人の2016年度事業計画として2月末を目途にまとめようとしています。昨年11月28日いわき市で開催した討論集会(「原発事故収束・福島復興」)では、「行動隊の具体的な実働事例を資料化して被災者に情報発信」「『福島を忘れない』ための行動を継続」等、貴重なご提案をいただきました。「計画」に十分活かしたいと思います。

「なにができるか、なにをすべきか」について皆さまの積極的なご提案を期待しています。

「持久戦」の肉付け

SVCF新体制が取り組もうとしている行動の基本方針を、「わたしたちの行動2015/10/01」(『SVCF通信67号』)で概略以下のように示しました。

『事故収束』の到達点である廃炉には少なくとも40年かかり、短兵急な収束はあり得ない。…発足当初に想定されていた短期決戦型の『原発サイトに飛び込む』に代わる持久戦型の行動を考えねばならない。…発足当初から目指している『原発構内に入って事故収束作業に当たる』ことが出来るようにするため、国会議員、内閣への働きかけを今後も続けていく。

2016年度に向けて、これを肉付けし具体的行動に結びつけていかねばなりません。

一つにはSVCFメンバー自体のトレーニング並び新たなSVCF要員確保のための人材育成です。特に、これまではほとんど行われていない人材育成について、そのプログラムを立て実行していくことが重要です。

もう一つは、SVCFが目的とする行動を実行できるようにす



るための条件を整えることです。これまで行ってきた、①「原発事故収束事業の国家プロジェクト化」について国会、内閣への申し入れ、②「国家プロジェクト化」実現のため月例の院内集会で政界との関係を深めていく、等に加えて、シニアが現場で行動に入れるようにするための立法活動を進めようとしています。

具体的には「原子力発電所事故に対処する特別行動隊の配備に関する法律」(仮称)といった法案(要項)を考

ことにします。SVCFが提案してきた「シニアの活用」「事故収束作業要員の育成」等を、その中に盛り込みます。

この法案を院内集会で国会議員を交えた討議にかけ、また国会・内閣への立法化請願、協力議員に託して質問主意書のかたちで行政に働きかけることなどにより、実現へのステップを踏んでいきたいと思っています。

難点の克服

思うに、福島原発の事故収束に関わっている各種市民団体のなかで、わたしたちSVCFが他の団体とは異なっている特徴、「シニアの活用」こそが、SVCF の実際の行動を難しくしているのです。40年という長期の廃炉への過程で、事故収束作業の人手が払底してくることは明らかですが、そのことが直ちに「シニアの活用」に結びつくわけではありません。東電相手に強談判したり哀訴嘆願して実現することではないのは、自明です。事故収束事業に関する政治の転換が不可欠です。

「シニア活用」に関するSVCF提案が活かされるように、政治を動かさねばなりません。政治を動かすには、政治家、中でも福島選出の国会議員たちを動かさねばならない、そして、福島の議員を動かすために決定的なのは福島の選挙民の力です。11/28福島集会は、わたしたちSVCFが「福島の選挙民・県民にあまり知られていない」という致命的な弱点を克服することを主眼に開催されました。2016年に向けても、同じ試みを様々なかたちで繰り返していかなければならないと考えています。

<第48回院内集会のご案内>

- 日 時：1月21日(木) 11:00-13:00 (10:30から玄関ロビーで入館証配布)
- 会 場：参議院議員会館 (B104会議室)
- 内 容：元・イチエフ作業員からの報告
- 講 師：池田 実氏

東電ホームページより転載



東京電力福島第一原発(イチエフ)の事故炉の廃炉は、溶けて固まった燃料の取り出しなどを含めて、完了までに30~40年程度かかると見込まれる困難な事業です。しかし、その見込み自体も机上で作られたものであり、実際には何年かかるかわかりません。

事実、昨年末にも報道されているように、地下水処理問題や原因不明の高濃度放射性物質による汚染水問題や海側に設置した遮水壁の水圧による傾きの問題など、今もなお不測の事態が相次いで起っており、当初のロードマップは修正を余儀なくされています。

そうした中で、現在もっとも困難な立場に立たされているのが、現場の最前線で事故収束作業にあたる作業員の

方々です。彼らは、下請会社の下で危険な現場に送り込まれて苛酷な労働を強いられています。

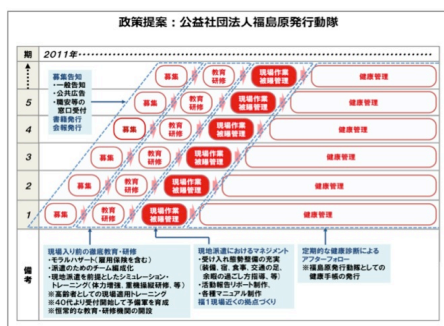
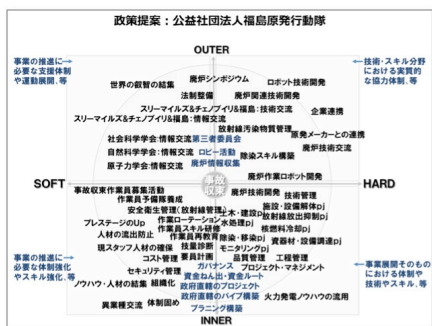
そんなイチエフ内部の実際の状況を、昨年まで現場で働いていた池田実氏にお話をいただきます。お話のあとには質疑応答も用意しています。多くの方々のご参加をお待ちしています。

□ 皆さまの知識と知恵を求めています □

「政策提言プロジェクト」および「人材育成プロジェクト」のスタッフ募集中!

福島原発行動隊では、今後の事業の一環として福島第一原発の事故収束作業にシニアが関わる数々の作業の提案や提言活動を行うとともに、その具体的な活動の一つとして取り組む人材育成事業のカリキュラム作成やシミュレーション教育の企画や運営に携わるスタッフの募集を開始しました。

これまでの長年にわたる豊富な経験の中で、お力をお貸しいただける方がいらしたら、是非とも一緒に活動したく



お願い申し上げます。原発作業もしくは事故収束作業にこれまでのお仕事で携わってきた方や、土木や建築、電気工事等の分野で指導に関わられてきた方や、教育

関係や企画関係のお仕事に携わられてきた方のノウハウを特に求めています。

ご協力いただける方は、下記メールまでご連絡ください。

□ご連絡先: Mail = svcf-admin@svcf.jp

□ 事務局からのお知らせ □

公益社団法人福島原発行動隊の事務局は、右記マップの通り交通至便な場所に位置しています。事務局のメンバーは、毎週木曜日の11時~13時(※)にここで連絡会議を開催し、事務運営の確認や情報交換を行っています。連絡会議は、基本的にオープンで開催していますので、メンバー以外の方も参加できます。お近くにお越しの際は、是非ともご参加ください。※院内集会や祝日と重なった日は、変更もあります。

<1月~2月の「連絡会議」開催予定>

- 1月14日(木) □1月21日(木): 院内集会後にその会場で開催します
- 1月28日(木) □2月4日(木) □2月12日(金): 11日が祝日のため
- 2月18日(木) □2月25日(木)

【事務局】東京都千代田区神田淡路町1-21-7 静和ビル 1階A室 Tel:03-3255-5910 Mail:svcf-admin@svcf.jp

